

ありがとう

【教育目標】

○夢や目標に向かって、仲間とともに主体的に学ぶ児童・生徒の育成

【合い言葉】

○「ありがとう」でもっとつながる大畑小

発行 大畑小校長 森下秀一

アオバズクフェスティバル特集号 みんな笑顔（スマイル） みんなの心に希望をとどけ笑顔の花を咲かせよう！

10月30日（日）に、学校運営協議会の皆様、民生児童員の皆様、大畑校区シニアクラブの皆様、第三中の西校長にご臨席いただき、大畑小学校「アオバズクフェスティバル」が行われました。誠にありがとうございました。

保護者の皆様にもたくさんご参観いただき、子どもたちも嬉しそうでした。本当にありがとうございました。

子どもたちは発表の練習を積み重ねるごとに上達して、緊張の中でも一人一人が堂々と発表できました。私は、子どもたちの姿をととても頼もしく、また誇らしく感じました。

担任からの話によれば、練習の始まりの頃は、せりふの途中で止まったり、声が小さくて周りに聞こえなかったり、演奏や歌の息が合わないことがあったようです。

しかし、一生懸命練習すればほとんどのことは克服できることを、子どもたちは身をもって体験し、それを力強い発表の姿で示してくれました。

特に、今回のアオバズクフェスティバルは都合でお休みの子どもさんが多かったので、参加できずに悔しい思いをしている人の分までがんばろうとする子ども集団の強い思いを感じることができました。

それでは、当日の講評では時間がなくて伝えられなかったことを、学年ごとに掲載したいと思います。

1年生「くじらぐもにのって」

入学して半年経ちました。1年生はいろいろなことができるようになりました。そのできるようになったことを国語で学習した「くじらぐも」と一緒に発表しました。出だしから、くじらぐもの役と子どもたちの役になりきって、全員が大きな声で堂々と発表ができ、すてきでした。1年生みんなで作詞、作曲、振り付けまで考えた「くじらぐもの歌」もすばらしかったです。前日のリハーサルよりも大きな声が出ていてびっくりしました。「きらきら星」の演奏も、とても上手でしたよ。最後までがんばりぬいた1年生、ありがとう！



2年生「ぼってんスイミー」

2年生による球磨弁による「ぼってんスイミー」、とてもかわいくて、見ている私たちが元気をもらいました。「スイミー」は外国の人が書いたのに、球磨弁のあたたかくて親しみやすい言い方がぴったりでした。2年生の発表で感心したのは、一人一人の声の美しさです。毎日歌を一生懸命練習しているので、きれいな発声で声が出せるようになったんですね。すばらしいです。最後のスイミーと赤い魚が「しょんなかね～」と言って握手する場面がとてもすてきで印象に残りました。2年生、元気が出る発表をありがとう！



3年生「にじ色のかぎ」

3年生は大畑学（総合的な学習の時間）で、人吉梅園や大畑駅について、地域の方やお家の方に教えていただいています。当日は国語で学習した「にじ色のかぎ」の物語と関連させて、自分たちが見つけた大畑の宝を発表しました。最も少ない人数での発表だったので、一人一人のせりふがとても長かったですね。よく諦めずに最後までやりぬきました。3年生の挑戦する姿はとてがかっこよかったです。リハーサルよりも声が出ていたのにも感心しました。やる気をもって取り組んでくれた3年生、ありがとう！



4年生「福祉ってなあに？」



4年生は、「ふだんのくらしを **し**あわせにする」福祉について、一人一人が自信をもち、堂々と発表してくれました。4年生みんなが説得力のある発表ができたのがすば

らしいです。日頃の学習から自分たちの力を発揮しながら真剣に取り組んでいる4年生だからこそできた迫力のある発表でした。後半の歌も振り付けを入れながら、大きな声で歌えていて感心しました。4年生、知らなかったことをたくさん教えてくれてくれてありがとう！

5年生「未来につなごう！水俣からのメッセージ」

5年生は熊本県の大きな課題となっている水俣病やそれに関連する差別問題について、力強いメッセージを私たちに発信してくれました。水俣病の問題は、中途半端な発表ではかえって差別を助長する危険性がある、と指摘する人もいます。しかし、大畑小5年生の発表は、その心配をはねのけるすばらしい発表でした。5年生全員が水俣病の問題をいかに真剣に学んでいるのかが、よく伝わってきました。一人一人の表現力も高く、さすが高学年と思わせるメッセージ性の高い発表でした。ありがとう、5年生！



6年生「未来への贈り物」



6年生はテーマごとにグループを作り、調べ学習、せりふ・プレゼンテーション・小道具作りまで、自分たちの力でやり遂げました。すべてが自分たちの手作りなので、練習する時間が不足してみたいですが、発表の日の朝まで、よりよい発表にするために工夫改善をするあたりはさすが最高学年でした。今学習していることを発表まで練り上げる6年生の力は大したものです。発表直前に「全力で楽しむぞー」・「オー」という気合いが聞こえてきました。自らの力で未来への贈り物を作り上げた6年生、ありがとう！

「あり【が】とう」でもっとつながる大畑小

【が】は、「**学習を自分たちの力で**」の頭文字です。

私が知っているこの5年間で、令和4年度の63人の子どもたちが、最も「**学習を自分たちの力で**」を実現しています。

研究授業を見ても、自習中に実現している子どもたちによる学習を見ても、今回のアオバズクフェスティバルの発表を見ても、それを感じます。

未来を担う子どもたちが、**自分たちで課題を見付け、考え、判断し、行動し始めました。**

この子どもたちが創っていく未来が楽しみになってきました。